

上越市生まれの徳山さんは、子どもの頃から遠くに見える妙高山を見て育った。妙高山は心の支えだと言い切る(右)

高校時代は競技スキーをしていた、板垣さん。新潟市の学校に進学したことが赤倉で働くきっかけになった。「こんなに雪があるのだから、新潟の人たち、もっとスキーしましょう！」(左)



◆ヨーデルスキー学校
子どもレッスン、ファミリーレッスン、プライベートレッスン、スノーシューツアー、バックカントリーツアーなど。0255(87)2232。
ホームページ <http://yodelsnow.com/index-jp.htm>



山之内さんのご自宅前で、愛犬と冬の必需品・ブルドーザーと一緒に。子育ても自然の中でしたいと、大阪生まれの奥さまを説得しての雪国暮らし。「雪深いところでは住民がみんな助け合おうですよ。そうでなければ、到底暮らしていけません」

「赤倉は妙高高原の中でも外国人客が特に多いです。外国の人たちはインターネットで赤倉のことを知り、日本にこんなに雪が豊富で大きなスキーリゾートがあるのかと驚き、訪ねて来ます。近年はヨーロッパやオーストラリアの方にとっても好評です」

山之内さんは外国人客のためにイギリス人やオーストラリア人の講師

を雇っている。これもインターネットで交渉して採用しているという。徳山裕さん(58)は指導者歴25年のベテラン講師。大学卒業後、新潟市で会社勤めをしていたが、ずっとスキーの仕事に就きたいと思ってきた。勤務中たまたま車で妙高高原を通過した時、「妙高山が呼んでいる感じがして」腹を決めた。上越市に住み、冬はスキー、夏はテニスの指導を仕事にしている。

老舗ヨーデルスキー学校

山に抱かれ熱心に指導

赤倉に外国人が多いのにびっくり。平日は8割以上とか。通行人同士にっこり笑って、アイコンタクトする町は、新潟ではここだけかもしれない。



〈わたべ・よしのり〉 1959年見附市生まれ。中学校教師から、写真家・上山益男氏に師事したのち、91年よりフリー写真家として活動。星空と仕事をしている人の撮影が大好き。

「スキーを仕事に、しかも親から離れて独り立ちしたい」と赤倉にやってきたのが秋田県出身の板垣玲奈さん(44)。障がい者スキーの指導にも熱心に取り組んでいる。「湯沢はわりと知られているのですが、赤倉で障がい者スキーができるという事があまり知られていないんです。もっと知ってもらえるように頑張りたいです」。

さまざまな人生を歩みながら、「スキーが好き、スキーを仕事にしたい」という共通の思いで赤倉に集まってくる人たち。妙高高原の風景のような、とてもさわやかなものを感じた。